



特集

炎症性腸疾患の 新規治療薬について



統括診療部長
藤本 剛

医学博士 岡山大学医学部医学科臨床教授
日本内科学会 総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会 消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会
消化器内視鏡専門医 / 同学会中国支部評議員

炎症性腸疾患について

原因不明の炎症性腸疾患¹⁾には潰瘍性大腸炎・クローン病があります。

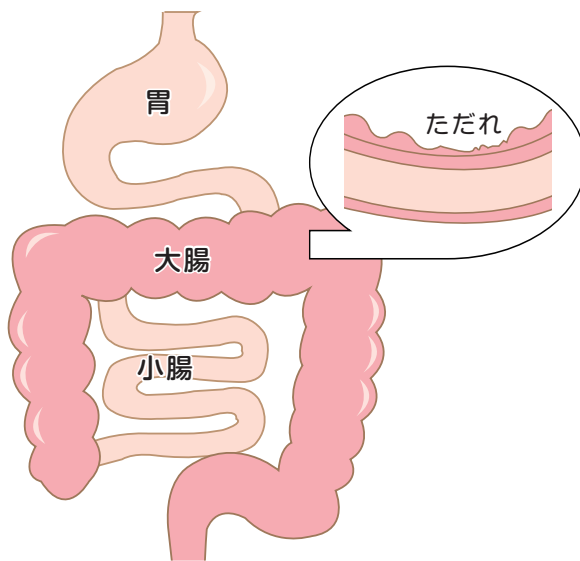
いずれも若い頃に発症することが多く、腹痛・発熱・下痢・血便等の症状が長期間続き、貧血や低栄養による体重減少を来し来院されることが多い病気です。

以前は頻度の低い病気とされていましたが、現在では潰瘍性大腸炎は20万人、クローン病は5万人の患者さんがいるとされ、決して珍しい病気ではありません。両疾患は難治性疾患で厚生労働省が指定する指定難病（特定疾患）となっており、診断した医師と相談し、病状にもよりますが、治療費の公費援助が受けられる病気です。

1) 炎症性腸疾患

炎症性腸疾患については、広義には腸に炎症を起こす疾患全てを指しますが、狭義には炎症性腸疾患のうち、原因が不明で長期間に渡り炎症が持続する難治性の腸炎を意味しています。この中に潰瘍性大腸炎とクローン病があります。（厳密には両疾患のどちらかが特定されない分類不能の炎症性腸疾患もありますが、一般向けではないので割愛します。）

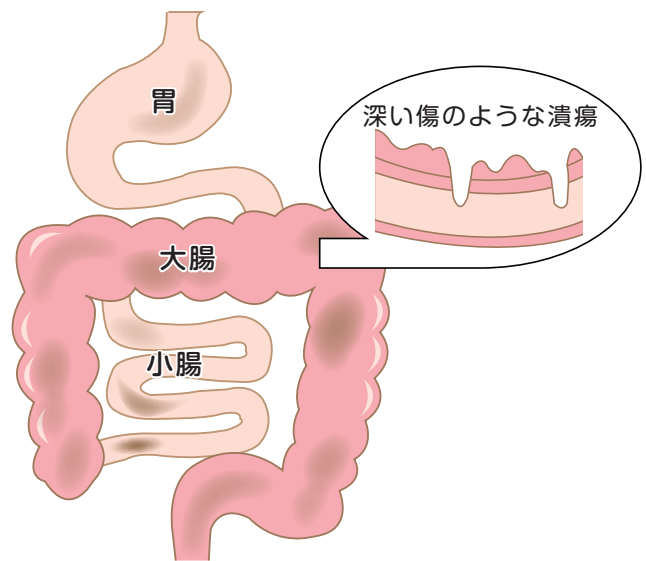
潰瘍性大腸炎



潰瘍性大腸炎

…大腸の粘膜に炎症や潰瘍、ただれができる病気

クローン病



クローン病

…消化管のどの部分にも炎症や潰瘍ができる病気

治療について

これらの病気に対する治療については、以前は5-ASA製剤（ペンタサ他）とステロイド剤しかありませんでしたが、2002年に抗TNF α 抗体製剤であるインフリキシマブ（レミケード）がクローン病治療薬に認可、2010年にはアダリマブ（ヒュミラ）追加で使用可能となり、目覚ましい進歩を遂げました。

また、2010年にはインフリキシマブは潰瘍性大腸炎の治療薬に認可され、その後2013年にアダリマブ（ヒュミラ）も使用可能となり、以前は入院や手術が必要であった患者さんがこれらの治療薬で日常生活を取り戻せるまで回復されました。



新しい治療薬

しかし、長期間の使用で抗TNF抗体製剤に対する自己抗体が出現し治療効果が減弱する症例も増加したため、新規薬剤の出現が期待されていました。

その後、2017年に抗IL12/23p40抗体製剤であるウステキヌマブ（ステラーラ）がクローン病に適応追加となり、2018年にJAK阻害剤のトファシチニブ（ゼルヤンツ）が潰瘍性大腸炎に使用可能となりました。

さらにベドリズマブ（エンタイビオ）も追加、2022年・2023年にはフィルゴチニブ（カログラ）、ウバダシチニブ（リンヴォック）、カロテグラストメチル（カログラ）、リサンキズマブ（スキリージ）、ミリキズマブ（オンボー）も発売となり、治療薬の選択肢が増えました。詳細は表にまとめています。

ただし、これらの新規治療薬は高価な薬剤で特定疾患の申請後に導入され、専門医による定期観察や副作用のチェックが必要とされています。

【炎症性腸疾患に使用可能な治療薬（免疫に作用する新規治療薬を中心に抜粋）2024年1月現在】

一般名	薬剤名	投与方法	適応疾患	分類
タクロリムス	プロGRAF他	内服	UC	カルシニューリン阻害薬
インフリキシマブ	レミケード他	点滴静注	UC/CD	抗TNF α 抗体製剤
アダリマブ	ヒュミラ他	皮下注射	UC/CD	抗TNF α 抗体製剤
ゴリブマブ	シンボニー	皮下注射	UC	抗TNF α 抗体製剤
ウステキヌマブ	ステラーラ	点滴静注で導入後皮下注射	UC/CD	抗IL-12/23p40抗体製剤
ベドリズマブ	エンタイビオ	点滴静注、皮下注射	UC/CD	$\alpha 4 \beta 7$ インテグリン阻害剤
リサンキズマブ	スキリージ	点滴静注で導入後皮下注射	CD	抗IL-23p40抗体製剤
ミリキズマブ	オンボー	点滴静注で導入後皮下注射	UC	抗IL-23p19抗体製剤
カロテグラストメチル	カログラ	内服	UC	α インテグリン阻害剤
トファシチニブ	ゼルヤンツ	内服	UC	JAK阻害剤
フィルゴチニブ	ジセレカ	内服	UC	JAK阻害剤
ウバダシチニブ	リンヴォック	内服	UC/CD	JAK阻害剤

※ UC: 潰瘍性大腸炎、CD: クローン病

おわりに

これまでに潰瘍性大腸炎・クローン病と診断され、従来の治療でも症状が持続・悪化している方がおられましたら、当院消化器内科にご相談ください。

